



## 紙上ギャラリー



### アンドロメダ大星雲

秋の代表的な星座のひとつアンドロメダ座に、M31として有名な大星雲があります。肉眼でもかすかに見え、双眼鏡でははっきりと楕円形の姿を確認することが出来ます。

われわれの太陽系が存在する天の川銀河の約2倍の大きさがあり、230万光年もの離れた距離にあることが知られています。天体望遠鏡での撮影、合成により、ダイナミックな大銀河の雄姿を捉えることが出来、その巨大さに感動します。

写真提供／岡村龍一郎（小野市）

## 医薬品事業部の業務

理事 西尾 輝光

医師協薬品部では多くの後発医薬品を扱っています。後発医薬品に関しては、政府がこの6月に「経済財政運営と改革の基本方針2015」で、従来の使用目標を上方修正し、後発医薬品に係る数量シェアの目標値については「2017年央に70%以上、2018年度から2020年度末までの間のなるべく早い時期に80%以上とする」としています。医療費の適性化という名目で後発品の使用頻度を上げて医療費の高騰を抑制しようとしているわけですが、恐らく今後も何らかの形でインセンティブを付与するものと思われます。

しかし一般の医師が後発品を使用するか否かは、インセンティブがあるかないかという問題ではなく、ジェネリックが先発品と比較して信頼に足るか否かということです。m3.com ニュースでのアンケート（7月中旬）の結果では、1）薬効が違う場合がある（56%）2）有効性、安全性等の情報が少ない（55%）とあり、この2点がジェネリック医薬品の使用をためらう先生方の懸念であります。

この8月26日、中央社会保険医療協議会薬価専門部

会は2016年度薬価制度改正に向けて、3つの製薬団体へのヒアリングを実施しました。この中で日本ジェネリック製薬協会会長の吉田氏は「後発医薬品のシェア60%に対する供給体制でやってきた。今回は80%という目標が設定されたので、業界を挙げて必死に取り組んでいる。」と述べたが、具体的内容は次回以降の薬価専門部会で説明するとしています。これは「無理して量産すると、どんな問題が生じてくるのか。」という質問に対する回答です。

神戸医師協が提供する医薬品の多くがジェネリックであることを考えますと、この点をクリアしないとなかなか御使用して戴けないのではと考えます。薬品部としては売り上げ向上の為には薬を使って欲しい。さりとしてその為にはジェネリックの効能について確たる証拠が欲しい。薬品部の今後に向けての憂いがここにあります。この点に関して薬品部で協議検討せねばなりません。皆様の御協力も依頼するやも知れず、どうぞよろしくお願い申し上げます。